

Japanese
Believest Thou This?
50-0115

あなたはこれを信じるか？
ヒューストン テキサス州 アメリカ合衆国
1950年01月15日



www.messagehub.info

ウィリアム・マリオン・ブラハム
"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその
僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就され
る。" 黙示録 10:7

はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

あなたはこれを信じるか？

1 ボズワース兄弟、ありがとうございます。

皆さん、こんばんは。ここに來られてうれしく思います。どうぞお掛けください。

皆さん、お元気でしょうか？きっとお元気だと信じています。

今朝、神殿からの放送を聞くことができ、とても喜びました。癒された方々の証しを聞いて、本当に心が励まされました。

昨夜は、まことに自発的なブレイクスルーがあり、主の御霊が大いに注がれました。これからますます大きくなっていくことを、私たちは期待しています。そう信じますね？

もし私の見間違いでなければ、今、目の前に牧師のバッジを付けて座っておられる方がいますね。あなたは昨夜、車椅子におられませんでしたか？

(「そうです。」)

私は少し前に、そのことを口にしました。あの時から今に至るまでの間に何があったのかは分かりませんが、今は車椅子に座っておられない。ただそこに座っておられる。しかしこの方は大きな信仰を持っておられます。

もしまだ完全でないとしても、あるいは誰かが抱えてここに座らせたのだとしても、どうであれ、私はこの集会の間に、この方が癒されると信じています。昨夜、引き寄せられるようにしておられたのは、この方だったと思います。部分的にはそうでした。

どうか勇気を持ってください。心から信じてください。

さて、これらのことを私は自分でコントロールできるわけではありません。癒しを行われるのは神です。私はただ、神が私に語られたことを語り、示すだけです。しかし実際に癒しをなさるのは神なのです。

私たちは皆、それを信じていますね。

2 さて、今晚は——いや、今日は午後ですね。

私は癒しのための油注ぎのもとで來たのではありません。今日は、御言葉

を語り、信仰を励まし、皆さんがイエスを信じるようになることを願って来ました。

この一週間は、とても甘く、祝福された時でした。

正直に言えば、集会の人数は、私の生涯の奉仕の中で最も少ないほうでした。これが五日目、あるいは六日目の集会になるとと思いますが、これほど小さな集まりは、私が外に出る前、小さな教会で奉仕していた頃でさえ、あまりなかったほどです。

けれども、そこには一致がありました。

それが何よりも尊いことです。

この町には多くの集会があり、かなり重なっていることも承知しています。皆さんもいろいろな奉仕に参加しておられるのでしょう。

先日、献金の中に小切手が入っていましたが、それは別の方に宛てられたものでした。本来は昨年八月にその方が受け取るはずだったものだそうです。誰かが手違いをして、町を通っていった別の奉仕者のものが、こちらの献金の中に紛れ込んでしまったのです。

3 ロバーツ兄弟もしばらくこちらに来ておられましたね。

そして今は、まるで皆があちらこちらでキャンペーンをしているようです。私たちは皆、苦しんでいる人々のために何か良いことをしようとしています。どの人の心の中にもある目的は、助けたい、教会のために何かをしたい、という思いだと私は確信しています。

この一年の間にも、ここヒューストンでは多くの大きな集会が開かれてきました。そして、その働きは皆、同じ線上にあるように思えます。福音を宣べ伝え、病人のために祈り、そして――さまざまな形で奉仕をしているのです。

いずれにしても、神がなさったこと、そしてそれぞれの働きを通して実を結ばせてくださったことに、私たちは感謝します。

4 しかし皆さん、集会に次ぐ集会、また集会、また集会と続くと、人々は疲れてしまいます。

それは本当のことです。私自身、病人のために祈り、何夜も続けて集会をしてきましたから、よく分かります。

それは終わりではありません。

主が来られる時間が近いのです。

実際のところ、昨夜が最後の夜になるはずでした。

五夜ほどが私たちの一つの限界です。三夜から五夜ほどで、そしてまた別の町へ移って行きます。

御言葉によって癒しを説く他の牧師たちは、信仰を築き上げるために長い時間をかけることがあります。六週間、八週間、十週間、あるいは三か月滞在することもあります。それは、その働きの性質上、そうする必要があるので。

しかし、こちらの働きは、神がこの現象的な方法で何をなさっているかを示す、いわば実演のようなものですから、それほど長くはかかりません。

霊的に受け止める心を持っている人なら、最初の十五分か二十分でそれをつかみます。そして、物事が動き始めるのです。

そしてたいい五日ほどで、私たちはこの町を離れ、また別の場所へと向かいます。

5 いつも、ある時には私の務めとして、聴衆の皆さんに福音のメッセージを少し語る機会が与えられます。

そして日曜の午後に、説教をしてくれないか、少なくともやってみてくれないかと頼まれました。ですが、私は説教者ではありません。

今朝の放送で、こちらの牧師のお一人、リッチー兄弟のお話を聞きながら、こう思いました。

「もし今日の午後、この方が壇上に座っておられたら、私はどんな気持ちになるだろうか」と。

けれども、私にできることはただ一つ——神の栄光のために、自分にできる最善を尽くすことだけです。

私は教育を受けておらず、その点で多くの欠けがあります。それが、私を説教者にはなれない者になっています。私は説教者ではありません。

メッセージに入る前に、よくこうした小さなことを言うのですが……

(テープに空白)

6 私がまだ小さな少年だったころのことです。

父はなかなかの乗馬の名人でした。馬に乗りこなし、荒馬をならすこともできました。

実を言えば、父が母と出会ったのも乗馬競技の場でした。父は十八か十九歳、母は十四歳でした。そして結婚し、母がまだ十六歳にもならないうちに、私が生まれたのです。

私はいつも父のようになりたいと思っていました。

小さな男の子だった私は、「大人になったら本物のカウボーイになるんだ」と思っていたのです。テキサスでそれを言うのは、なかなか大きな言葉ですよ。まあ、ここはカウボーイの本場だと言われていますから。

西部劇の雑誌を読んだり、映画を見に行ったりしては、胸を躍らせていました。私の夢の頂点は、カウボーイになることでした。あのチャップスを身に着け、ブーツを履き、大きな帽子をかぶる——その日を待ちわびていたのです。

ああ、本当に情熱にあふれていました。

7 それで十八歳くらいになったとき、私は西部へ——アリゾナへ行って、カウボーイになろうとしました。家を飛び出したのです。

家を出る前に、少しばかり「練習」はしていました。

家にいた古い耕作用の馬を使っていたのです。朝から晩までその馬で畑を耕させ、哀れな年老いた馬は、水桶まで戻って水を飲むのもやっとでした。

それでも私は、馬具を外すと、オナモミ(いがのある草の実)をひとつかみ持ってきて、鞍の下に忍ばせ、鞍をぎゅっと締め上げてから、ぴよんと飛び乗るのです。

かわいそうに、その馬は年をとって体も固く、疲れきっていましたから、思うように跳ねることもできない。ただその場でいななき、ぴよんぴよんと小さく跳ねるだけでした。

私はというと、古い麦わら帽子でその馬を叩きながら言うのです。

「いやあ、これで俺もカウボーイだぞ！」

——そんな具合でした。

8 弟たちは柵に座って、私を見ては大笑いし、大きな拍手までしてくれまし

けれど、神は決して逃げてはおられません。

神は、ご自身の時を持っておられるのです。

67 そして——

彼女たちがこれまでに経験した中で、いちばん暗い時でした。

すべてが終わったように見える。

希望は墓の中に横たわっている。

祈りも無駄だったように思える。

その時に、イエスが来られたのです。

ああ、主はいつもそうです。

いちばん暗い時に、主は来られる。

光がまだ残っているうちは、人は自分に頼ります。

医者に頼り、友人に頼り、理屈に頼り、経験に頼る。

けれど——

すべてが終わったと思ったその瞬間、

もうどうにもならないと思ったその場所で、

主は歩いてこられる。

神は、私たちが「もうだめだ」と思う所を、

「これからだ」という場所に変えられるお方です。

暗い時ほど、主は近い。

涙が深いほど、主の足音は近づいている。

その暗闇は、主が来られる前触れかもしれません。

だから、もし今が暗いなら、

愛する兄弟は死に、四日が過ぎていました。

彼女たちは、あの方にすべてを託していたのです。

教会も、日常も離れて、そのお方に従ってきた。

その方が来なかった。

そして兄弟は死んだ。

——すべてが終わったかのように見える、その瞬間。

しかし、「先生が来られる」と聞いた時、

マルタの中で何かが立ち上がったのです。

本当の信仰は、

最も暗い時間に目を覚まします。

66 イエスに従う者は、皆、会堂から締め出されました。

それは事実です。

人々は主を狂信者だと言いました。

そして主に従う者も、同じように扱われました。

彼女たちは教会も、立場も、すべてを離れて主に従ったのです。

それなのに、その主は、兄が死んだときにそばにいなかった。

周囲の人々の声が聞こえるようです。

「もし本当に力があるなら、なぜ自分の友を癒さなかったのか。」

「ほら見ろ。都合が悪くなったから、逃げたんだろう。」

そういう声です。

信仰の歩みには、必ずこういう声がついてきます。

状況が悪くなると、人はすぐに疑いを口にします。

た。私は本物のカウボーイだと思っていたのです。

「西部に行ったら見せてやるさ。インディアナ出身のカウボーイがどんなものかをな。」

そして西部へ行きました。

覚えていますよ……手持ちのお金でチャップスが買えると思っていたのです。

店に行くと、とても立派な一着がありました。大きく“A-R-I-Z-O-N-A”と文字が入り、裾には牛の頭の飾り、目の部分には大きな真鍮のボタンが二つ。

「これはかっこいい。ちょっと履いてみよう。」

履いてみました。

足に羽の生えた小さなチャボのようだったでしょうね。

革が三フィート(約一メートル)ほど床に余って垂れているのです。あちらの若者たちは脚が長いんです。インディアナの者には長すぎました。

それを見て思いました。

「これを引きずって通りを歩いたら、どんな姿になるんだろう……」

そして、心の中でこうつぶやきました。

「うーん……さて、どうしたものか。」

9 ちょうどロデオが開かれるところでした。

私は店の人に値段を聞きました。

「これはいくらですか？」

二十五ドルから三十ドルほどだと言われました。

ところが、私のポケットには三ドルか四ドルしかありません。

店の人が言いました。

「それなら、リーバイスで妥協したほうがいいよ。」

それで私はリーバイスを買いました。そして会場へ行きました。

生まれて初めて見るロデオでした。

たくさんのカウボーイたちが柵に並んでいるのを見て、

「よし、俺もあそこに座ろう」と思いました。

厚紙のような作りの大きな帽子を手に入れました。本物の西部の帽子のように見えるやつです。そして大男たちに混じってよじ登り、まるで自分も彼らと同じくらい大きな男であるかのように、あたりを見回していました。

やがて、一人の男が特定の馬に乗るために連れてこられました。

馬が囲いから出てくると、彼は鞍に飛び乗りました。

その瞬間、馬が二度ほど大きく跳ねました。

私はすぐに思いました。

「これは、うちの年老いた馬とは全然違うぞ。」

その馬はまるで、四本の足を洗面器に入れて振り落とすかのように、激しく鞍をはね上げました。二度ほど跳ねただけで、その男は道路の真ん中に投げ出されていました。

すぐに係員が駆け寄り、彼を抱き起こしました。鼻や耳から血が流れ、見るも無惨な姿でした。救急車が来て、彼は運ばれていきました。

10 その男が観客の前に出てきて言いました。

「この馬に一分間乗ってられる者がいたら、五十ドルやろう。」

あたりを見回しましたが、誰も名乗り出ません。

そして彼は私のほうをじっと見て言いました。

「君は乗り手かい？」

私は即座に答えました。

「いいえ、違います。」

いかもしれないですね。どちらも、霊的に死んでしまう場所になることがあるのですから。

それを思うと、あるたとえが浮かびます。

神学校出の説教者は、まるで孵卵器で生まれたひよこのようだ、と。

そのひよこは「ピヨピヨ」と鳴くけれど、母鳥がいない。

機械で生まれただけで、いのちのぬくもりがない。

同じように、ただ仕組みで作られた説教者もいる。

けれど私は、昔ながらの、神に救われた聖霊の人たちが好きです。

聖霊の働きがあり、聖霊の動きがある人たちです。

本物は、応答します。

いのちは、いのちに応えるのです。

それは本当のことです。

65 よく見てください。

主が町に入って来られるその時、マルタは家に座っていました。

これまでの彼女は、どちらかと言えば、ためらいがちで、動きの遅い人のように見えたかもしれません。

しかし今、違いました。

信仰が彼女を捕えたのです。

誰かが駆け込んで来て言いました。

「先生が町に来ておられる！」

ああ、その瞬間を想像してみてください。

それは彼女の人生で最も暗い時でした。

あの家にとって、これ以上ないほどの闇の時。

「彼は私の咎のために傷つき、その打ち傷によって私は癒された」と悟るなら、あなたはその場で神の力を受け取ることができます。

今あなたが座っているその場所で、癒しの力を受け取ることができるのです。

アーメン。

それは真実です。

63 さて、主は町に近づいて来られました。

もう四日目です。

マルタとマリヤはそこに座っていました。

すべての望みは消えたかのようでした。ラザロは墓の中で横たわっていました。率直に言えば、もう朽ち始めていたのです。

私はある晩、「具合が悪くて吐いた」と言ったことがあります。すると皆が笑い出しました。

私は言いました。「“吐いた”と言おうが、“嘔吐した”と言おうが、気分が悪いことには変わりはないでしょう。何が違うんですか。同じことです。」

無理に飾らなくていいのです。

自分のままでいなさい。

今日の問題はそこです。

人は格好をつけすぎる。堅苦しくなりすぎる。

それは真実です。アーメン。

そう思いませんか？ 私は本当にそう信じています。

64 人々はあまりにも「取り繕う」ようになりました。

福音までが、飾り立てられ、教育で固められ、形ばかり整えられてしまった。

そして彼らを神学校に入れる。——いや、時には“墓地”と言ったほうがい

すぐに考えを改めたのです。

あれは、私が家で乗っていたあの年老いた馬とはまったく違うと分かっていたから。

さて、バプテスト教会で按手を受け、最初に牧師として立てられたときのことです。

ああ、私はあなたがたが見た中で一番うれしそうな伝道者だったでしょう。

誰かが「あなたは牧師ですか？」と聞けば、

私は胸を張って答えました。

「はい、そうです。」

11 ある日、私が初めてホーリネスの人々の集会に出席したときのことです。

場所はセントルイスでした。そこでロバート・ドハティ牧師に出会いました。彼はテント集会を開いておられました。

その夜、私は会場へ行きました。ちょうど彼の小さな娘さんが癒されたばかりで、その証しが紹介されていました。

彼は私をその集会へ連れて行ってくれました。そして壇上に立つと、説教を始めました。

それは、私がほとんど初めて聞くペンテコステ派の説教でした。

あの若い牧師は、膝ががくがくするまで説教しました。ついには床のほうまで身をかがめ、息をつくのです。その声は、二ブロック先まで聞こえるほどでした。そしてまた立ち上がっては説教を続けるのです。

誰かが私に尋ねました。

「あなたは説教者ですか？」

私は答えました。

「いいえ、違います。」

いやいや、私のあのゆっくりしたバプテスト流では、とてもあんなふうにはできません。あれを聞いた後では、とても自分を説教者だとは言えませんでし

た。

それ以来、フルゴスペルの人々の前では、自分を説教者だとは言わないことにしました。

「いいえ、私は病人のために祈る者です。」

そう言うことにして、任せることにしたのです。

12 しかし、こういう日に、御言葉を読み、私に分かる限りでそれを説明しようとするのは、本当に喜びです。

なぜなら——私は、神の御言葉は一語一句すべて真理だと信じているからです。

このような集会では、癒しのためのあの特別な油注ぎの下に入る必要はありません。祈りや断食の状態に入らなくてもよいのです。ただそのまま来て、御言葉を読み、語ることができます。

ご覧のとおり、福音を説教するときの感覚は、あの神の御使いの油注ぎの下にあるときとは、まったく違います。

あのときは、あらゆる霊に対して非常に敏感になります。まるで壁の中にまで何かが染み込んでいるように感じたり、ここかしこから何かが滴り落ちるように感じたりするのです。

本当に、まったく別の感覚なのです。

13 そして今日の午後は、御言葉について少し語ろうと思って参りました。

どの箇所を語ろうかと考えていました。以前よく語っていた「父をお示ください。それで満足します」(ヨハネ14章)というテーマにしようかと思っていたのです。

するとリンゼー兄弟が、「もう少し待って、それを録音に残したらどうですか」と言われました。

それで、ラザロの復活——彼がどのように死からよみがえったか——その箇所を語ろうかと思いました。ここで以前にその話をしたことがあったかどうか、覚えていませんが……ありましたか？

そうですか。

イエスは言われました。

「私たちの友ラザロは眠っている。」

弟子たちは言いました。

「眠っているなら、よくなるでしょう。」

主は言われました。

「わたしは彼を起こしに行く。」

彼らはなおも言いました。

「眠っているなら大丈夫です。」

すると主ははっきり言われました。

「彼は死んだ。しかし、わたしは彼を起こしに行く。」

それから彼らは主とともに出発しました。

町に近づいて来ました。

もう少しで終わります。時間が過ぎるのは早いですね。

ああ、今日は本当に気分がいい。皆さんの応答する信仰を感じます。

あなたがたの信仰が動いているのを感じると、私も励まされるのです。

62 今、私はこう思います。もし神があなたを癒そうとしておられるそのご態度を、私なりにあなたに示すことができたなら……。

もしあなたが、聖霊の福音を信じてきたのと同じように、神の癒しをも信じ、実践してきたなら、兄弟姉妹よ、今日この午後ここで、聖霊のときと同じ結果が癒しにも現れるはずですよ。そう信じますか？もちろんです。

私が聖霊の力について語り、御言葉を示すとき、聖霊に満たされた子どもたちは、すぐにそれをつかみ取ります。飢え渴いているからです。彼らは手を伸ばし、御言葉をつかみます。

同じように、今ここで向きを変え、

それはあなたの中にかかっています。

他の人を責めてはいけません。

神はしるしや不思議、奇跡を示しておられます。

けれども人々は、それが何であるかをつかみ取れていないように見えます。

60 少し前、ある人が私のところに来て言いました。

「ブラナム兄弟、私はフリーマンのところにも行きました。ロバーツのところにも行きました。オギルヴィのところにも行きました。みんなのところへ行きましたが、何もしてもらえませんでした。だからあなたのところへ来ました。」

私は言いました。

「あなたは今も同じ状態ですよ。行く相手を間違えています。キリストのもとへ行きなさい。」アーメン。

なぜ人に頼るのですか。

人はあなたを癒すことはできません。

人は御言葉を語ることはできます。

神が与えられたしるしを示すことはできます。

しかし、癒すことはできません。癒すのは神です。

それが真理だと信じますか？

それは真理です、皆さん。

あなたの牧師でも、教会の長老でも、ほかの誰であっても同じです。

神の前で特別な“人間”がいるわけではありません。

必要なのは、神への信仰です。

そこに答えがあるのです。

61 さて、急ぎましょう。

四日目になりました。

では、ヨハネによる福音書11章をお開きください。

私は御言葉が大好きです。皆さんもそうでしょうか？御言葉は本当に生きています。

ヨハネ11章の20節あたりから読み始めましょう。

ほんの数分間で結構ですので、どうか注意深く耳を傾け、心を集中してお聞きください。

14 ここに時計を置いておきます。なるべく手短かに終わりますから、早めに帰って夕食を取れるようにしましょう。

インディアナでは今でも「ディナー」と呼びますが、こちらでは何と言うのか分かりませんね。私は昔ながらのサッサフラスの田舎育ちで、いまだに「ブレイクファスト、ディナー、サパー」と信じているんです。いずれにしても、私のサパーは、あなたがたのディナーと同じくらいおいしいですよ。そうでしょうか？

それでは、ヨハネ11章20節から読みます。

マルタは、イエスが来られると聞いて迎えに行ったが、マリヤは家に座っていた。

そこでマルタはイエスに言った、「主よ、もしここにいてくださいましたなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」

しかし、今でもあなたが神にお求めになることは何でも、神はあなたにお与えになることを、私は知っております。」

イエスは彼女に言われた、「あなたの兄弟はよみがえる。」

(私はこの言葉が好きです。そう思いませんか？)

マルタは言った、「終わりの日のよみがえりのときに、よみがえることは存じております。」

(彼らは一般的な復活を信じていました。)

イエスは言われた、「わたしはよみがえりであり、いのちである。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことがない。あなたはこ

れを信じるか。」

彼女は言った、「はい、主よ。あなたがこの世に来られるはずのキリスト、神の御子であると、私は信じております。」

なんと力強い御言葉でしょう。

「わたしはよみがえりであり、いのちである。」

このお方が、ただ復活を与える方なのではなく、ご自身が復活そのものであり、いのちそのものであると宣言されたのです。

そして主は問いかけられます。

「あなたはこれを信じるか。」

それはマルタだけへの問いではなく、今日ここにいる私たち一人ひとりへの問いでもありますね。

15 しばらく頭を垂れて祈りましょう。

天の父なる神様、

私たちは今日の午後、この会堂にただ一つの目的のために集まりました。すなわち、あなたの御子イエス・キリストをあがめるためです。

父よ、どうかこのひととき、御霊の力によって、神の御言葉以外のすべてのものに幕を下ろしてください。御言葉がすべての心の中で自由に働くことができますように。ここに信じる者が祝福され、この午後、私たちの中にある病める者が癒され、神が栄光を受け、そして罪人が皆イエスのもとに来ることができますように。

主よ、あなたのへりくだったしもべの祈りをお聞きください。今、この奉仕の時に祝福してください。あなたのしもべの唇に語るための油注ぎを、そしてあなたの民の耳に聞くための油注ぎをお与えください。

私たちの救い主イエスの御名によってお願いいたします。

アーメン。

16 私たちの救い主のご奉仕のこの時期、主はたいへん人々に知られる存在となっておられました。

の姉妹だけが残されました。

二日目が過ぎました。

ますます暗く感じられたでしょう。彼女たちが信頼していたお方、教会も何もかも捨てて従った愛する主——その主が来てくださらなかった。失望の中で、兄は死んでしまったのです。

状況はどれほど暗く見えたことでしょうか。

あなたも祈ってもらい、神の力と奇跡を目の当たりにして帰ったとしても、翌日気分が悪くなるかもしれません。

次の日にまだ症状があるかもしれません。

その次の日に、何かが起こるかもしれません。

けれども覚えていますか。

イエスがてんかんの少年に祈られたとき、その子はこれまでで一番激しい発作を起こしました。

あなたの信仰は症状に置くものではありません。

神に置くのです。神を信じるのです。

分かりますか？

59 もしあなたの牧師が祈ってくれたあとで、

「やっぱり神の人じゃないのだろう。神が聞いておられるなら、こんなはずはない」と言うなら——

では、あなたの信仰はどうでしょうか。

神に触れるのは、牧師の祈りそのものだけではありません。

あなたの信仰が神に触れるのです。

あなたは神の御言葉に従っているのです。

そして御言葉に従うとき、神はご自身の約束に対して責任を持っておられます。あなたが信じるなら、神は答えてくださいます。

そういませんか？

イエスが出て行けば、すぐに困難が入って来ます。

もともと、この場合、主が追い出されたわけではありません。父の御業が呼んでいたの、別の町へ福音を宣べ伝えに行かれたのです。

私は、主がラザロのことをすでに幻で見ておられたと信じています。

人々は主を呼びに行きましたが、すぐには来られませんでした。もう一度呼びましたが、それでも来られませんでした。

もしそれがあなたの牧師で、呼んだのに来なかったら、どうでしょう。

「なんだ、あの偽善者め。別の教会に行こう」と言うかもしれません。

しかし、それでは牧師はあなたのために何もできません。

彼を神の人として信じなければなりません。そう信じますか？

信仰を持たなければ、彼はあなたに益をもたらすことができません。

病気になったら、彼を呼びなさい。油を塗り、祈ってもらいなさい。

神は「信仰の祈りは病む者を救う」と約束されました。それは真実です。

彼は神の人です。神はその祈りを尊ばれます。

時には、あなたが呼んだその瞬間に来られないこともあります。

けれども覚えておいてください。

「神を愛する者には、すべてのことが共に働いて益となる。」

58 さて、ラザロはだんだんと重くなっていきました。

ある歴史家は、出血で亡くなったと言いますが、詳しいことは分かりません。ただ、病が悪化し、ついに死んでしまったのです。そして彼らは彼を葬りました。

一日目が過ぎました。

なんと暗い時間だったことでしょう。家の支えだった兄は去り、若い二人

主はマルタ、マリヤ、そしてラザロと親しく交わっておられました。彼らは兄弟姉妹でした。(聞こえていますか？よろしい。)

ある歴史家たちは、ラザロは書記であり、マリヤとマルタは神殿のために織物やつづれ織りをしていた、と伝えています。もともと、それが証明できるかどうかは分かりませんし、何をしていたかということ自体は、さほど重要ではありません。

大切なのは、彼らがイエスの友であったということです。

そしてイエスの働きは大きく広がり、この時期には、福音を宣べ伝え、病人を癒し、父から任じられた地上での使命を果たすために、ほかの地方へ出て行かれていました。

主は、父の御心に従って、その働きを続けておられたのです。

17 イエスがこの地にお生まれになったときから、すでに世の目には「傷」のようなものがついていました。

主はいつも一般の人々には受け入れられましたが、当時の宗教的な指導者層や、いわゆる上流で気位の高い人々からは、しばしば軽んじられました。そしてそれは、今日でもほとんど変わらないのです。

私は、裕福な人や上流の人が救われないと断言しているわけではありません。もちろん救われます。もしへりくだって、私たちと同じように主のもとへ来るならば。

しかし、私たちは皆、ただ一つの道を通らなければなりません。

それは、自分は何者でもなく、主こそすべてであると認めること。そして、主から恵みを受けるために、自分自身を喜んで明け渡すことです。

神から何かを受け取りたいなら、まず自分を低くしなければなりません。神の前で無に等しい者となり、自分には何もないと知ること。ただ一つの目的——イエスを見いだすこと、それだけです。

自分を低くするなら、神が高くしてくださいます。

しかし自分を高くするなら、神は必ずあなたを低くされます。

それは主が御言葉の中でそう語っておられるとおりです。

18 さて、イエスがお生まれになった時のことですが……

私は、すべての賜物は神の予知によって、あらかじめ定められていると信じています。皆さんもそう信じますか？私はそう信じます。

人が自分の力で何かを身につけたり、ある人が別のの人に霊的な賜物を与えたりできることは、私は思いません。そういうことが絶対にあり得ない、と言い切るつもりはありません。私の考えが神のご計画を変えるわけではありませんから。しかし、私はそれを聖書の中に見いだすことができないのです。

私が語り、信じていることは、すべて土台がなければなりません。

言い換えれば、信仰を築くための確かな裏付けが必要なのです。そしてそれは、神の御言葉から来なければなりません。御言葉こそ、すべての信仰の基盤だからです。

「信仰は聞くことから来る。聞くことは、神の御言葉による。」

ですから私は、すべての偉大な賜物は、神によってあらかじめ定められ、この世に与えられるのだと信じているのです。

19 たとえば、イエスご自身について考えてみましょう。

主は神によってあらかじめ定められ、この世に来られたお方でした。そう信じますか？

主は、蛇の頭を砕くと約束された「女の子孫」でした。そして蛇は、そのかかとを傷つけることになると告げられていました。

また、モーセも神によってあらかじめ定められていたと、私は信じます。そうでしょう？

彼が生まれたとき、立派な子どもでした。そしてパロの宮殿で育てられ、王座に足をかけるほどの立場にあり、王の後継者となる可能性さえありました。しかし、彼は神に定められた人でした。

もし普通の人間であったなら、その榮譽を受け入れていたでしょう。しかし彼は、別の目的のために神に召されていたのです。

バプテスマのヨハネもそうです。

彼が生まれる七百年以上も前に、預言者イザヤによって、「荒野で叫ぶ者

満たされ、その後、荒野に行き、四十日の試みに遭われました。そして出て来られると、奇跡とするしが主に伴い始めました。

聖書は言います。

「これらのしるしは、信じる者に伴う。」

しるしと不思議は、常に神の教会に伴ってきました。

これまでもそうでしたし、これからもそうです。歴史をどこから見ても分かります。

神は何度もリバイバルを送られました。しかしやがて人々はそれを組織にし、形にしてしまいます。そしてその形の中では、御霊の自由な働きが保てなくなるのです。歴史の中で、一度倒れた組織が再び本来の力を取り戻した例はほとんどありません。神はいつも、ご自身の民を次の場所へと導かれます。

今日も、神は一つの民を呼び集めておられると、私は心から信じています。

それは、どこか一つの教会から引き抜くという意味ではありません。心を一つにするということです。教会そのものは大切です。それぞれに良いところがあります。

しかし今必要なのは、使徒パウロの時代のような、昔ながらのリバイバルです。

聖書的な聖霊が、力をもって語られ、教会の中で人々をもう一度整えることです。

アーメン。

57 さて、主が荒野から戻られ、その働きが大きく広がったころのことです。

主が別の地へ行っておられる間に、ラザロは病に倒れました。

よく聞いてください。

もしあなたの家からイエスが離れたら、そのあとに何が来るかを見ていなさい。

病、問題、心の痛み、失望——そういうものが入って来ます。

今日私たちに必要なのは、昔ながらの聖霊の火、神が送ってくださる燃えるリバイバルです。アーメン。

それなら人は動きます。

座ったままではいられないほどの火を語りなさい。本当です。

さて、その後、その亀を持っていると、兄が来て言いました。

「亀を捕まえたのか？」

「うん。」

彼がそれを持ち上げようとする、切り離したはずのその口がパクツと噛みつこうとしたのです。

一時間も前に首を切り落としていたのに。

兄は言いました。

「殺したって言ったじゃないか。」

私は言いました。

「頭と体は分けた。でも死んでいることを自分で分かっているんだ。」

それが、多くの人の姿です。

死んでいるのに、自分で気づいていない。

教会の形の中にも、聖霊の力が何であるかを知らない。

科学がどう言おうと、あれこれがどう言おうと、キリストを信じなさい。アーメン。

ああ、私は今うれしい。アーメン。

本当にうれしい。主に感謝します。

56 さて、聞いてください。

イエスがヨルダン川に来て、ヨハネからバプテスマを受けられたとき、ヨハネは神の御霊が鳩のように下って主の上にとどまるのを見ました。主は聖霊に

の声」として語られていました。彼もまた、神に定められていたのです。

20 そしてエレミヤのことを思い出してください。

彼がまだ母の胎内から出てくる前に、神はこう言われました。

「わたしはあなたを知っていた。あなたを聖別し、国々への預言者として定めた。」

まだ生まれる前から、神は彼を知り、取り分け、使命を与えておられたのです。

そうでしょう？

21 私は、そうした召しは確かに神によって定められていると信じています。

しかし今日では、私たちは時に少し興奮しすぎたり、熱心になりすぎたりして、それが益よりもかえってつまずきを生むことがあるように思います。そうは思いませんか？(まあ、何も言わなくてもいいですが。)

たとえば、若い人がやって来てこう言うのを見たことがあります。

「主が私を召して説教者にされました。昨夜回心しました。主が私を召されたのです。」

若者よ、少し待ちなさい。

本当に神が召されたのかどうか、確かめたほうがよい。

植物でも、ある時に植えられますが、強い日差しが出ると、すぐにしおれてしまうものがあります。

家を建てる前には、まず腰を下ろして、費用を数え、自分にそれができるかどうかを確かめなさい、と主は言われました。

けれども、私たちは時に熱くなりすぎます。

それでも、私はこう思います——まったく無気力であるよりは、少しぐらい熱心であるほうがよい。少なくとも、誰かが本気で心を燃やしているということですから。

22 しかしイエスが生まれたとき、人々は最初から汚名を着せました。

ヨセフが父だと言われ、いわば「婚外子」だとささやかれました。母が結婚前に身ごもった、と言われたのです。

しかし私は、それは誤りだと言います。

神こそが主の父であられました。主は処女降誕によって生まれたのです。

そして主がこの地に来られる前から、その来臨は告げられていました。神はいつも――

さて、ここで少し教理的なことに触れるかもしれませんが。もしあなたがそれを信じられなくても、それで結構です。それで仲たがいする必要はありません。

たとえば、あなたの家でチェリーパイをごちそうになったとします。私はチェリーパイが大好きです。食べていて種に当たったら、パイを全部捨てるでしょうか？いいえ、種だけを取り除いて、パイはそのまま食べ続けます。

それと同じです。

信じられるところは受け取り、信じられないところは脇に置いておけばよいのです。

23 神がこの地上に大きな出来事を送られるとき、必ず御使いによってそれを告げ知らせられます。私たちはそれを知っています。

イエスの誕生も、その後の出来事も、御使いによって告げられました。

時には、より小さな使命を帯びた御使いが遣わされることもあります。たとえば、私を訪れたあの御使いのように――それは一つの働きのための御使いでした。

しかし、ガブリエルが下って来るとき、それは重大な出来事です。

ガブリエルはイエスの最初の来臨を告げました。そして第二の来臨も告げるでしょう。ラッパを吹き鳴らし、キリストにあって死んだ者たちがよみがえるとき――それはガブリエル、神の大天使です。

神が大きな御業をなさるとき、それは決して隠されたままではありません。天が先にそれを宣言するのです。

24 さて、イエスがお生まれになる前の時代――

造られるのです。

ああ、ハレルヤ。

と言っても、興奮しているわけではありませんよ。

「ハレルヤ」とは「主をほめたたえよ」という意味です。

そして私は、主をほめたたえます。アーメン。

54 その亀は、近づくとすぐに殻の中に引っ込みました。

私は言いました。「よし、歩かせてみせよう。」

長い柳の枝を持ってきて、つついてみました。しかし彼はじっとしたまま。

たたいても動きません。そういうものです。無理やりに動かすことはできません。ただ殻の中でじっとしているだけです。

今度は水のところへ連れて行きました。

「これでどうだ」と思い、水に入れてみました。ぶくぶくと泡が上がっただけでした。

前からでも後ろからでも、どんなやり方でバプテスマをしても、

乾いた罪人が水に入って、濡れた罪人になって出てくるだけです。

水そのものが人を救うわけではありません。

私は考えました。

「どうしたらこの亀を動かせるだろう。」

バプテスマの方法を議論しても、教会は前に進みません。

それでは動かないのです。

55 それで私は紙を集めて、小さな火をおこしました。そしてその亀を火のそばに置いたのです。

するとどうなったか――動きました。

そうです。

目に映る美しさを強調するのは、サタンのやり方です。

はじめに、彼はミカエルよりも良い場所を作ろうとしました。

その後、カインの中に入り、同じことをしようとしてしました。カインも神にささげ物をしました。アベルと同じことをしました。

しかし、血がなかったのです。

53 ある日のことです。兄と歩いていて、一匹の大きな亀を見つけました。なんとも滑稽な姿でした。こちらにそういう亀がいるか分かりませんが、歩くときに足をひよいひよいと出すのです。

私は兄に言いました。

「なんておかしい格好なんだろう。」

兄も「本当だな」と言いました。

そこで近づくと、その亀はすぐに——(身ぶりで示すように)——手足を全部引っ込めて殻の中に隠れてしまいました。

あれは、福音をはっきり語るときの、ある人たちの姿を思い出させます。

すぐに殻の中へ引っ込んでしまう。

「私はバプテストだ。」

「私はメソジストだ。」

けれども、もしあなたの名が天に書き記されていないならば、その所属では救われません。

子羊のいのちの書に記されている者、贖われ、もう一度生まれた者だけです。

イエスは言われました。

「人は新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない。」

本当にそのとおりです。

新しく生まれるとき、人は新しい被造物になります。キリストにあって新しく

マリヤはナザレで育った若い処女でした。

そしてその前に、先駆けとしてヨハネが来なければなりませんでした。

バプテスマのヨハネを見てみましょう。なんと偉大な人であったことでしょう。

この箇所時点で、イエスはヨハネのもとへ向かっておられました。

ユダヤやヨルダン地方一帯の人々が、彼の語る言葉を聞こうとヨルダン川へ集まっていました。なんと大きな影響力を持つ人だったことでしょう。彼もまた、あらかじめ定められていた人でした。

彼が生まれる前のことです。父ザカリヤは神殿で仕えていました。

民が祈っている間に、香をたく務めを果たしていたのです。

ある日のこと——

彼は敬虔な人でした。(私はその言葉が好きです。あなたもそうでしょうか?) 神を礼拝する人でした。

しかし、彼の家には一つの悲しみがありました。

妻エリサベツは年をとっており、子どもがありませんでした。ユダヤの女性たちは皆、子どもを持つことを願っていました。それは大きな名誉と考えられていたからです。反対に、不妊であることは恥と見なされました。

たとえばダビデの最初の妻は、契約の箱の前で踊る彼をあざ笑ったため、神によって子どもを産めないようにされたことと聖書は語っています。

当時、子どもを持つことは祝福のしるしと見なされていたのです。

25 さて、ザカリヤは正しい人であり、聖なる人であり、敬虔な人でした。

彼と妻は、いつの日か神が子どもを与えてくださると信じて、祈り続けていました。神にすがり続けていたのです。

そしてその時、彼が神殿で香をささげていたまさにそのとき、御使いガブリエルが彼の前に現れました。

そして告げました——神殿での務めが終わったら家に帰り、妻と共にいる

ように。彼女は身ごもり、男の子を産む。その名をヨハネと呼ぶように、と。

ザカリヤは善良で、聖く、正しい人でした。長年そのことを祈り求めてきた人です。

しかし注目してください。彼は、自分が祈っていたことが実際に答えられたとき、それを信じることができなかつたのです。

これは、今日の私たちとよく似ていませんか？

祈っておきながら、神が実際に答えられると、かえって驚いてしまう。

彼は長い間祈り続け、神はその祈りに応えられました。

そして私はここでこう言います——神はすべての真心からの祈りに応えてくださいます。私はそれを信じています。ただし、それは神ご自身の方法によつてです。

26 しかしエリサベツは、すでに子を産む年齢を過ぎていました。

ザカリヤは言いました。

「そんなことがあるはずがない。妻は年をとっているし、私も年老いている。どうしてそんなことが起こり得るだろうか。」

彼は御使いの言葉を信じることはできませんでした。

そこで御使いは言いました。

「この子が生まれる日まで、あなたは口がきけなくなる。」

そしてザカリヤは口がきけなくなりました。

外で待っていた人々は、彼がなかなか出てこないのを不思議に思っていました。ようやく出てきたとき、彼は言葉を発することができず、身ぶりで伝えるしかありませんでした。

人々は、彼が神殿の中で御使いを見たのだと悟りました。

やがて彼は家に帰り、妻は身ごもりました。

こうして、小さなヨハネはこの世に生まれる備えの中にあつたのです。

聖霊のバプテスマに入るすべての人は、あの日に与えられたのと同じ聖霊を受けることができます。

ハレルヤ。私はそれを信じます。神の真理です。

似ている何かではありません。

本物です。

あの日に降つたのと同じ聖霊が、今も降ります。

同じ聖霊は、同じ証拠と同じ実をもたらします。

ハレルヤ。アーメン。

ああ、なんと良いことでしょう。

「今、感じます」と言う人もいますでしょう。

そのとおりです。

それは本物です。

私にとつても、あの日と同じほど現実です。

ペンテコステの日に降つた、あの同じ聖霊なのです。

52 今日どうしてしまったのでしょうか。

教会がその本来の力から離れてしまいました。

立派な建物を建て、素晴らしい長椅子を並べ、最高の音楽をそろえ、天使の合唱のように歌う人を立てる。けれども壇上で美しく整えられ、きらびやかに歌いながら、外に出ればタバコに火をつける——それで「天使の合唱」と呼ぶのでしょうか。

女性も男性も、自分をクリスチャンと言うなら、そのように生きなさい。

「彼らの実によつて、あなたがたは彼らを知る」と主は言われました。

しかし私たちは妥協してしまう。

覚えておいてください。

新しい恵み、新しい満たしが、毎日必要なのです。

50 さて、これも聖霊の型です。

あのマナは地から湧き出たのではありません。

どこかの祭司が配ったのでもなく、説教者が人に“授けた”のでもありません。

それは上から来ました。

神から降って来たのです。

モーセはアロンに命じました。そして彼らは一オメル分を取り、至聖所の中に保存しました。

それは後に、至聖所の奥に入る祭司たちが、それについて問うとき、味わうことができるようにするためでした。

彼らには、あの“最初のマナ”を味わう権利があったのです。

外に置いておけば古くなりましたが、至聖所の中に置かれたものは古くなりませんでした。

そこでは、いつまでも新鮮なままでした。虫も入ることができませんでした。

それは保存されていました。

その祭司職に入るすべての者が、元のマナを味わうことができるように。

51 なんと美しいことでしょう。

ペンテコステの日、聖霊が天から降りました。

私たちのマナです。

私たちが血潮を通り、救われ、罪を清められた後に、聖霊が降ったのです。

ペテロはペンテコステの日に言いました。

「この約束は、あなたがたと、あなたがたの子どもたち、そして遠くにいてすべての人々、すなわち主なる私たちの神がお召しになるすべての人に与えられているのです。」

27 それから六か月後、御使いは再び下って来ました。

今度はマリヤという名の若い処女のもとへです。彼女はナザレという町に住んでいました。当時はあまり評判のよくない、小さな町でした。

けれども、どんなに評判が悪い町であっても、神は――

このヒューストンも立派な町です。私が訪れた中でも、最も良い町の一つです。しかし、どの町にも良い人と悪い人がいます。それはどこでも同じです。

善と悪は、エデンの園のときから人の前に置かれています。そして今もお、善と悪は存在しています。

もし「悪い町」を見たいなら、私の故郷の小さな町に来てみてください。そこは「リトル・シカゴ」と呼ばれているくらいです。ですから、ヒューストンのことを言ったからといって気を悪くしないでください。

なぜなら、神の子どもたちはどこにでもいるからです。

携挙が起こるとき、人々はあらゆる場所から引き上げられていくと、私は信じています。

28 さて、その御使いがナザレに下って来たときのことを、少し情景として思い描いてみましょう。

たとえば「ブルー・マンデー」、洗濯の日だったと想像してみてください。

マリヤは水を汲みに出かけ、東方の習慣のように、水がめを頭に載せて運んでいたかもしれません。水を運びながら、いつものように家路についていた――そのときです。

突然、大きな光が彼女の周りを照らしました。

その光の中に立っていたのは、大天使ガブリエルでした。

彼は彼女の前に立ち、こう言いました。

「おめでとう、マリヤ。あなたは女の中で祝福された者です。」

その挨拶は、若い処女マリヤを驚かせました。

御使いが目の前に立つのです。あなたでも驚くでしょう。私でも驚きます。

そして御使いは言いました。

「あなたは男を知らないのに、男の子を身ごもる。その名をイエスと呼びなさい。」

こうして、神のご計画は、静かなナザレの町で、ひそやかに動き始めたのです。

29 ここで、マリヤとザカリヤの違いを見てください。

ザカリヤは祭司でした。当時で言えば福音の奉仕者です。神の奇跡のみわががこれまでどれほどあったかを知っていました。それでも、自分に起こることとなると、御使いの言葉を疑いました。

しかしマリヤは言いました。

「ご覧ください。主のはしためです。」

彼女は、「どうしてそんなことがあり得るのか」と問い詰めたりしませんでした。

そして考えてみてください。

実は、マリヤのほうが、ザカリヤよりもはるかに大きなことを信じなければなりませんでした。

ハンナは年をとってから子を授かりました。

サラも年老いてから子を産みました。

そのようなことは、すでに聖書の歴史の中で何度も起こっていました。

しかしマリヤは、これまで一度も起こったことのないことを信じなければなりませんでした。

男を知らないまま子を宿す——そんなことは、これまで誰にも起こったことがなかったのです。

それでも彼女は、神に問いただすことをせず、ただ御言葉のとおりを受け取りました。

アーメン。私はそれが好きです。

ハレルヤ。

その中に隠れているなら、悪魔はあなたに触れられません。

しがみつきなさい。

手放してはいけません。

どれほど症状が現れても、どれほど状況が悪く見えても、

そこにとどまりなさい。

癒しの力が、あなたから病をすべて引き出すまで。

主は必ずなさいます。

49 このマナに、もう一度目を向けてみましょう。

あれは聖霊の完全な型でした。

覚えていますか。マナは毎夜降りました。

そして毎日、新しい分を取りに行かなければなりませんでした。そうですね？ そうなら「アーメン」と言ってください。

もし前日のものを取っておいたら、どうなりましたか？

虫がわいてしまいました。

今日の多くのペンテコステ的体験が弱っているのは、そこです。

二年も三年も前の体験を証して、それに頼っている。古い体験には“虫”がつきます。

なぜ「今」ではないのですか？

ハレルヤ。新しく受け取りなさい。

毎日です。

イエスと共にある一日は、前の日よりさらに甘いのです。

彼らは毎夜マナを食べました。

そこに主がおられるのです。ハレルヤ。栄光あれ。

ただ、その岩をなめればよいのです。

兄弟よ、聞いてください。

私はそれを教会の上には置きません。キリストの上に置きます。あるべきところ——キリストの上にはです。

主をなめなさい。ハレルヤ。

癒しが必要なら、力が必要なら、賛美が必要なら、それはすべて主に属しています。アーメン。

キリスト——堅き岩の上に。

あの岩も、大きな役割を果たしていました。

48 昔、「狂犬石(マッドストーン)」というものがありました。

狂犬にかまれた人をその石に当てるのです。もし石にくっつけば助かり、くっつかなければ助からない、と言われていました。

しかし私が知っている最悪の狂犬は悪魔です。

そして唯一の治療は「永遠の岩」です。

その岩にしがみつきなさい。

離れずにいなさい。神が面倒を見てくださいます。

車椅子の少年、目の見えないあなた、寝かされているあなた——

変わる事のない神の御手をしっかり握りなさい。

悪魔がかみついたかもしれません。

しかし「裂かれた永遠の岩」には、あなたを引き寄せる十分な力があります。

「とこしえの岩よ、われのために裂かれし岩よ、

われをあなたの中に隠れさせたまえ。」

神をその御言葉のとおりを受け取ることです。

どれほど不可能に見えても、神を信じなさい。

そうすれば、神は必ずそれを成し遂げてくださいます。

30 よく見てください。

マリヤは、「本当に身ごもったと確信できるまで」待ちませんでした。

胎内にいのちを感じるまで黙っていたのではありません。

何のしるしも現れていないうちから、彼女はすぐに証しし始めました。

「私はこの子を宿すのです」と語り始めたのです。

神よ、どうかもっと多くの“マリヤ”を与えてください。

しるしや不思議を待つものではありません。

御言葉のゆえに神を受け取り、「それは起こる」と喜び始めるのです。

なぜなら、神がそう言われたからです。

もしこの会堂にいるすべての病人が、今この瞬間、神の御言葉に基づいてそれを受け取り、信じ、そして癒されたと証しし、神をほめたたえ始めるなら、この集会が終わるとき、ここに一人の不自由な人も残らないでしょう。

そのとおりです。

神はご自身の御言葉に責任を持っておられます。

ちゃんと聞こえていますか？

声は大きすぎませんか？

よろしい。

どうか、私とともに祈ってください。

31 さて、マリヤはすぐにユダヤの山地へ向かいました。

御使いがエリサベツのことを告げたからです。

エリサベツとマリヤはいとこ同士でした。

イエスとヨハネは、いわばまたいここにあたります。

マリヤが山地へ向かい、やがて母となるいとこのもとへ行ったときのことを想像してみてください。エリサベツが遠くからマリヤを見つけると、きっと駆け寄ったことでしょう。二人は抱き合い、喜び合い、昔ながらの女性たちのように、笑顔で親しくあいさつを交わしたに違いありません。

私は言いますが、今日の人々に欠けているものの一つは、そこにあるのではないのでしょうか。

昔のような温かさや親しみが少なくなっています。

人々はあまりにも自己中心的になり、自分だけの小さな世界に生きているかのようです。

それは事実ではありませんか。

昔、農場に住んでいたころは、近所の人々が病気になると、皆で畑仕事を手伝い、薪を割り、家まで運んであげたものです。

けれども今では、新聞を読まなければ、隣人が亡くなったことさえ知らない——そんな時代になってしまいました。

自己中心——それが問題なのです。

32 昔は、通りで顔を合わせれば、互いに手をしっかり握ってこう言ったものです。

「元気かい、兄弟？」

ところが今では、道で出会っても、ちょっと気取ったように薄笑いを浮かべ、顔を上げて通り過ぎていく。

ああ、これでは愛が薄れていくのも無理はありません。

私は、人よりも自分のほうが上だと思っているような態度が嫌いです。

結局のところ、私たちはみな、六フィートの土に過ぎないのです。それだけです。

迷いし我をも見いだし

盲目し目にも光あれ ♪

そのとおりです。

46 それから彼らを見てみましょう。

紅海を渡ったあと、彼らは生きるための食べ物が必要でした。

すると神は、天からマナを降らせました。

それは聖霊の型でした。

毎朝、彼らは外に出てそれを集めました。

それは良いもので、味は蜜のようでした。彼らは口にしては、唇をなめながら食べたのです。

私は言います。

今降り注いでいるこの聖霊こそ、その型の実体です。型があつて、こちらが本体なのです。

そしてその味は、まるで蜜のようです。

聖徒たちがその中に酔いしれ、唇をなめながら「うーん、なんと良いことか」と言うのを見たことがあります。

蜜には、何か特別なものがあるのです。

そのとおりです。

47 古のダビデ——あの詩篇の作者も、蜂蜜について語っています。

彼は羊飼いでした。

羊飼いは、小さな袋を持っていました。その中に蜂蜜を入れていたのです。

羊が病気になると、その蜂蜜を石——石灰岩の岩に塗りました。すると病んだ羊は、その岩をなめに行きます。蜂蜜をなめ取るうちに……(テープ不明瞭)

そして呼び出されたとき、彼らは神の教会となりました。なぜなら「教会」とは「呼び出された者たち」という意味だからです。

そして今、神は民を呼び出しておられます。

バビロンから、混乱の中から——ハレルヤ。アーメン。

「なぜ自分でアーメンと言うのですか？」と言う人がいるかもしれません。

あなたが言わないなら、私が言います。私はそれを信じているからです。アーメン。

「アーメン」とは「そのとおり」「そうなりますように」という意味です。

そして私は、それが真理だと知っています。

45 イスラエルが呼び出されたとき、それは教会の型でした。

イスラエルは常に教会の型です。あれは自然の教会、こちらは霊の教会です。彼らは呼び出されました。

呼び出された直後、彼らは紅海を通り、モーセに属するバプテスマを受けました。そして向こう岸に渡ると、御霊によって満たされました。

ミリアムはタンバリンを取り、川岸を踊りながら進みました。ハレルヤ。

彼女は勝利を得ていたのです。あなたはそのような勝利を得たことがありますか？

彼女は御霊の中で踊り、イスラエルの娘たちも皆、彼女に続いて踊りました。モーセは両手を上げ、御霊の中で歌いました。

なぜでしょう。

あの圧制者たちが、すべて彼らの背後に倒れていたからです。過去の重荷、苦しみ、奴隷の生活——それらはすべて後ろに置かれていたのです。

キリストの赤い血が、あなたのすべての罪を洗い清めたと知るとき、あなたも勝利の歌を歌うことができます。ハレルヤ。

♪ 驚くばかりの恵みなりき

この身の汚れを救いしは

誰であろうと、皆同じなのです。

33 少し前に、私は博物館に立ち寄りました。

そこに、体重百五十ポンド(約六十八キロ)の男性の写真があり、その身体を構成している化学成分の分析が示されていました。

その価値は——八十四セント。

百五十ポンドの人間の身体は、化学的にはそれだけの値段だということです。

けれども、その八十四セントの上に十ドルの帽子をのせて、「自分はたいしたものだ」と思うのです。

ある女性は、その八十四セントを百ドルの毛皮のコートで包み、近所の半分の人にさえ口をきかない。

いったい何が問題なのでしょう。

神の愛が人をどこかへ連れて行くのです。

そうです、結局は八十四セントにすぎません。身体のことなら、ずいぶん大事にします。

しかしその魂は、一万の世界よりも価値があるのに、そこには何でも平気で押し込んでしまう。

それが真実です。

34 少し前、大きな集会に出席していたときのことで。

そこに、どこかの王女のような立場の女性が来ていました。彼女は後ろの席に座っていました。

もし私が、あのようになんて裸に近い姿で座っている女性を見たなら、私は自分の上着を脱いで、その人のところへ行き、福音を語っている間、それを身にまもってほしいと勧めたでしょう。

実際に、私は一度そうしたことがあります。

その女性は腹を立て、立ち上がって足を踏み鳴らしながら会場を出て行き

ました。

けれども私は、とにかく伝える機会を与えられたのです。

それでよかったのです。

35 クリスチャンの女性たちの服装、そして若い娘たちにそうした格好を許していること——それは本当に残念なことです。

アダムとエバが自分たちの裸を意識したのは、リンゴを食べたからだ、と言う人がいますね。もしリンゴを食べたことで女性が裸に気づいたのなら、またリンゴを配らなければならない時代かもしれません。

まさにそのとおりです。

ああ、本当に嘆かわしいことです。

浜辺で日焼けをするために体をさらし、しかもそれが既婚の女性で、小さな子どもがいる母親だったり、あるいは若い女性たちであったりする。そして自分は聖霊に満たされていると言うのですか。

もし本当にそうなら——

木はその実によって知られる、と聖書は言っています。

そのとおりです。

36 この中に私の娘もいます。将来どうなるかは分かりません。けれども、もし浜辺に寝そべて日焼けしているのを見つけたら、「サンタン」ではなく、「サン・タニング」になるでしょうね。チャーリー・ブラナムの息子が板で“焼く”ことになるでしょう。それは確かです。

古臭いサツサfras流の説教かもしれませんが、人を守るのです。間違いなく矯正になります。言い方が洗練されていないかもしれませんが、心に響くはず。それは確かです。

人々のあり方は本当に残念なものです。

ある女性が集会の後に来ました。係の者に言ったのです。

「ドクター・ブラナムにお会いしたいのですが。」

私は信じています。

「あなたがたの息子、娘は預言し、わたしのしもべ、はしためにもわたしの霊を注ぐ」と。

その日が、今ここに来ているのです。

そのとおりです。

43 彼らがそこに立っているのを見て——ああ、小さな胎児は母の胎内で喜びに跳ねました。

そして生まれてからは、彼は説教しました。全地方の人々が彼の話を聞こうと集まったのです。

では、彼はどんなメッセージを語ったのでしょうか。

彼はキリストを語りました。

もし教会が、人間的な神学や哲学、あるいは誰が次の市長になるかといった話や、花やバラの話などをやめて——

神の御子キリストを語るなら(ハレルヤ)、人々は引き寄せられるのです。

「わたしが上げられるなら、すべての人をわたしのもとに引き寄せる」と主は言われました。

そのとおりです。

本当にそうなのです。

44 ああ、昔ながらの聖霊——今もなお存在し、すべての人に自由に与えられています。

聖書全体を通して、聖霊が今日の教会を導くと型で示されています。

イスラエルが荒野に導き出されたとき、彼らは「教会」でした。神の民でした。

先ほど通りでフロッドシャム兄弟と話していました。彼はかつて『ペンテコステ・エヴァンジェル』の編集者でした。

イスラエルがエジプトにいたとき、彼らは神の民でした。

神よ、真理のために立つ人を、もう一度与えてください。アーメン。

誰が近くに座っていようと、相手が誰であろうと関係ありません。結果がどう転ぼうとも、福音をまっすぐに当てはめるのです。

黒は黒、白は白。

正しいものは正しい、間違いは間違い。

もしあなたが正しくないなら、正しくなりなさい。

それがあなたをまっすぐにし、見た目も、振る舞いも、生き方も変えるでしょう。違った人になるのです。

聖霊はあなたにとって良いものです。

あなたを整え、正していただきます。

42 今、国々や世界中で起こっている問題はここに 있습니다。

形だけは敬虔を装いながら、その力を否定する、冷たく形式的な教会があまりにも多いのです。

今日必要なのは、教会から少し「固さ」を取り除くことです。

それはペンテコステにも言えることです。アーメン。そうでしょう。

こちらに一派が座り、あちらに神の教会があり、さらに向こうにアッセンブリーズがあり——互いに恐れ合い、あれこれ気にしている。

しかし、それらを忘れてキリストの中に入るとき(ハレルヤ)、聖霊が自由に働くことができるのです。アーメン。

どうせ私を「ホーリー・ローラー」と呼ぶのでしょうか？

それなら、いっそ思いきり行きましょう。そうです、そのとおり。

もし私がホーリー・ローラーなら、あなたが今まで見た中で一番幸せなホーリー・ローラーでしょう。

神の御言葉を信じることでその名を受けると、どうぞその印を押してください。

ドクター・ブラナム？私はあなたの兄弟です。アーメン。

彼女は杖の先に付いたような眼鏡をかけ、あごを上げ、手をひらひらさせながら歩いてきて言いました。

「ドクター・ブラナム、光栄ですわ。」

私は言いました。

「それを下げてください。そうすれば、あなたの顔が見えますから。」

あの気取りよう……。

私は昔ながらの握手が好きです。心が通う、温かい握手。相手のぬくもりが伝わるような握手です。

神があなたがたを祝福されますように。

立派な服の下ではなく、古びた青いシャツの下にこそ、最高の心臓が打っていることもあります。本当にそうです。

37 さて、そのときの情景を思い浮かべてみましょう。

マリヤがエリサベツに会いに行きました。二人は走り寄り、腕を広げて抱き合いました。昔ながらの温かい再会です。

マリヤが言ったでしょう。

「あなたも母になると聞きましたよ。」

エリサベツは答えます。

「ええ、そうなの。でも……」

少し情景を描いてみましょう。

「母になるのだけれど、少し不安なの。もう六か月になるのに、胎内の子がまだ動かないのよ。」

ヨハネはイエスより六か月早く宿されました。ガブリエルが現れてから六か月たっていました。それなのに、まだ胎動がない。命のしるしが感じられない。

不安になるのも無理はありませんね。

38 それは明らかに普通ではありませんでした。

通常なら、二か月ほどで胎動があるはずですが。しかし六か月たっても、命のしるしが感じられない。

エリサベツは言ったでしょう。

「赤ちゃんのことが心配なの……」

そこでマリヤがこう言ったと想像してみてください。

「ガブリエルという御使いが私のところに現れて、男を知らないのに子を宿すと言われたの。そして、その名をイエスと呼びなさいと。」

そして彼女が「イエス」と口にしたその瞬間——

聖霊の力が臨み、母の胎内にいた、命のしるしのなかったその子が、喜びのあまり跳ね動いたのです。

もし、ただ一度、人の唇から語られた「イエス」という御名が、命の兆しのなかった胎内の子に命をもたらしたのなら——

キリストにあって生きているはずの、もう一度生まれたクリスチャンにとって、その御名はどれほどの力を持つべきでしょうか。

そのとおりです。

39 彼女は言いました。「どうして、わたしの主の母が、わたしのところに来てくださるのでしょうか。あなたのあいさつがわたしの耳に入ったとたん、胎内の子が喜びにあふれて跳ねたのです。」生まれる前に、母の胎内で聖霊を受けたのです……ハレルヤ。

私は確かに信じています。

キリストの福音の力のうちにある奇跡としるしを、私は信じます。主を心から愛しています。そして主が生きておられることを知っています。

たとえ全世界が何と言おうとも、私の心に疑いは一つもありません。

私は心の底から信じています。

御名が語られたそのとき、小さな胎児は跳ねました。

命の兆しのなかった胎内の子が、イエスという御名が最初に人の唇から発せられたとき、いのちを受け取ったのです。

「どうして、わたしの主の母が来てくださるのでしょうか。あなたの言葉がわたしの耳に届いたとたん、胎内の子が喜びにあふれて跳ねたのです。」

それが、イエスの御名の力なのです。

40 母の胎内から、生まれる前に聖霊に満たされていたと聖書にあるその子は、いったいどんな子であったのでしょうか。

彼は聖霊の説教者でした。そのとおりです。

そして彼が成長して——

九歳ほどになると荒野に入ったと伝えられています。エリヤの霊によって油注がれ、そのように振る舞い、そのような姿をしていました。やせた小柄な男で、頭は薄く、粗末な布を身にまとい、らくだの皮を着て、腰には革の帯を締めていました。

しかしユダヤの荒野から出てきたとき、彼は全地方を揺り動かすメッセージを語りました。

神よ、あのようなバプテストを、もう一度与えてください。アーメン。

後ろに襟を折った聖職者の衣装でもなく、ぜいたくな食事でもなく、説教する前に週百ドルの給料を要求することもなかった。

彼は聖霊に油注がれて出てきたのです。ハレルヤ。

彼の力は外見や待遇から来たものではありません。

聖霊から来たのです。

41 彼はごまかしもしませんでした。

ヘロデが、自分の兄弟ピリポの妻を連れて現れたとき、誰かが言ったかもしれません。「結婚や離婚のことは説かないほうがいい。」

しかしヨハネは、その顔をまっすぐ見て言いました。

「あなたがその女を持つのは正しくない。」